

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M211L103	生理学の基礎 (Physiology)	専門基礎科目 心身の機構

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	1	前	火・1	花田礼子, 寺西仁志, 鹿野健史朗 (神経生理学) 黒川竜紀, 桑慎一郎 (病態生理学) 井上 亮, 清村紀子, 幸松美智子(看護学科) 梅田涼平 (先進医療学科) 内線 : 5642 E-mail : seiril@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

看護学は、身体の正常な仕組みと機能をしっかり理解した上で、疾患に対する病態知識・認識を持ち、患者と向き合うことが必須である。本科目では、生体における生命現象と恒常性維持のメカニズムを習得し、ヒトの身体機能について理解を深める。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 生体における正常な動物性生理機能ならびに植物性生理機能を理解する		○		○			○
2. 恒常性を維持するための情報伝達機構を理解する		○		○			○
3. 生体の神経系、運動系、感覚系の生理機能に基づいて各領域の疾患・病態を理解し、看護実践を展開することができる			○	○			○
4. 人体を形成する構造と物質の基本的知識に基づいた機能連関の仕組みを理解する。		○		○			○
5. 生体の内部環境維持にかかわる様々な機能を理解する。		○		○			○

【授業の内容】

①	生理学総論、細胞の伝導と興奮	⑧	血液の循環とその調節
②	神経系と運動機能、神経伝達物質	⑨	体液の調節と尿の生成
③	自律神経系	⑩	内分泌系・生殖器系
④	本能行動	⑪～⑭	アクティブ・ラーニング (ビデオを用いた症例検討、症例に基づく討論)
⑤	連合機能	⑮	まとめ
⑥	栄養の消化と吸収		
⑦	呼吸と血液のはたらき		

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A : 知識の定着・確認	○	講義内容について、翌講義日にグループにより概要を発表する	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容の理解を深めるため、アウトプット重視とする。 各講義について学習した内容をまとめ、翌講義時に口頭発表させる。 動画や症例を用い、関与する生理機能、病態機能の理解を深める。
B : 意見の表現・交換	○	グループによる発表・発問	
C : 応用志向	○	各自によるレポート作成ならびに発表	
D : 知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	・参考書を用いて次回学習内容を一読する(1h)
事後学修	・各講義項目から関連した書物や興味のある書物を読む(1h) ・各講義内容に関する概要をグループ毎に復習し、発表形式にまとめる(2h)

【教科書】

系統看護学講座 解剖生理学 (第10版) 坂井建雄 医学書院 2018年

【参考書】

はじめの一步のイラスト生理学 (改訂第2版) 照井直人 羊土社 2011年

栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 (改訂第2版) 志村二三夫 羊土社 2014年

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5
筆記試験	80%	○	○	○	○	○
口頭発表	10%	○	○	○	○	○
レポート	10%	○	○	○		

【注意事項】

【備考】 アクティブ・ラーニングのレポート提出は必須。

担当教員の実務経験の有無	○	花田 礼子, 井上亮, 清村紀子, 幸松美智子, 梅田涼平
教員の実務経験		医師) 花田 礼子, 井上亮、看護師) 清村紀子, 幸松美智子、臨床工学技師) 梅田涼平
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無	無	
教員以外の指導に関わる 実務経験者	無	
実務経験をいかした 教育内容		臨床での経験を活かした生理学講義、アクティブ・ラーニングをおこなう。
授業形態		原則として、対面講義とする。